

金融市場NOW

法人企業統計 経常利益が過去最高水準に

設備投資も製造業を中心に持ち直し

- 2016年10～12月期の法人企業統計によると、経常利益は2四半期連続の増加となった。
- 設備投資は、円高一巡や世界的な製造業サイクルの改善等を受けて、年末にかけて急回復。
- 経常利益の改善は2四半期連続ではあるものの、持続性については今後も注意が必要か。

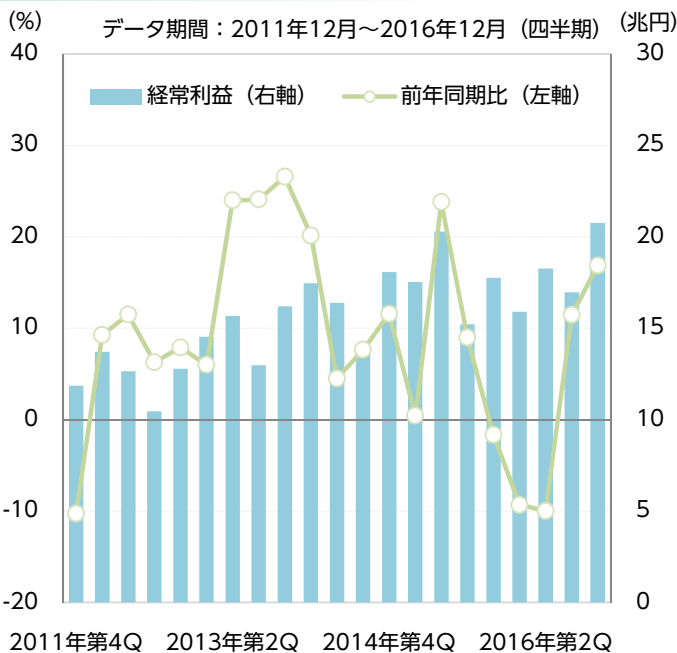
財務省が3月1日に発表した2016年10～12月期の法人企業統計によると、全産業（資本金1千万円以上、金融業・保険業を除く）の経常利益は前年比16.9%と2四半期連続の増加となり、7～9月期（同11.5%）から2桁増益が継続しました（図表1）。前期に14四半期ぶりにマイナスとなった設備投資（ソフトウェアを含む）は、同3.8%と反転となりました。

経常利益の内訳は、製造業が同25.4%と6四半期ぶりのプラス、非製造業は同12.5%と前期から減速となったものの2桁増益を維持しています。製造業については、世界的な景気回復、円安等の要因が重なり、素材産業、加工産業ともに大きく収益が改善しました。非製造業は、情報通信、運輸・郵便、電気業で前年比マイナスとなるなど、業種間にばらつきがあるようです。

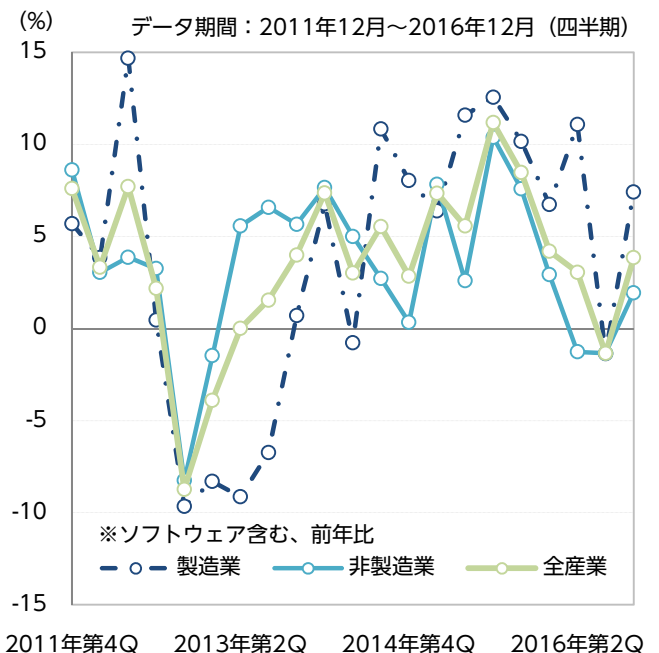
設備投資（ソフトウェアを含む）の内訳は、製造業が同7.4%と2四半期ぶりに増加、非製造業は同1.9%と3四半期ぶりに前年を上回りました（図表2）。円高や新興国経済の減速により、2016年前半の企業収益は大きく悪化したものの、円高一巡や世界的な製造業サイクルの改善を受けて、年末にかけて急回復を見せました。

全産業の経常利益の改善は2四半期連続です。7～9月期はサービス業で持ち株会社の受取配当金が増え、10～12月期は主に資源価格上昇が寄与しました。今後の持続性について、財務省は「注意深く見る必要がある」とコメントしており、楽観視していないようです。

図表1：経常利益（前年比）は2四半期連続の増加



図表2：設備投資は製造業・非製造業ともにプラスへ



出所：図表1、2は財務省「法人企業統計」を基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 **ニッセイアセットマネジメント** 1/1